

平成28年度 食育推進ボランティア表彰

事例集



農林水産省 消費・安全局
消費者行政・食育課

〒100-8950 千代田区霞が関1-2-1
TEL.03-3502-8111(代) FAX.03-6744-1974

農林水産省

CONTENTS

事例集の発行にあたって	1
平成28年度 食育推進ボランティア表彰 選考委員会 委員	1
食育推進ボランティア表彰講評	2
平成28年度 食育推進ボランティア表彰農林水産大臣表彰 受賞団体・個人の取組紹介	
（個人） 須釜 千代	4
（団体） あどぼけの会	5
越前市食生活改善推進員会	6
愛媛県立宇和島水産高等学校	7
那須塩原市食生活改善推進員協議会	8
新居（にい）を花いっぱいにする会	9
FAS（ファス）	10
ヘルスチーム菜良（なら）協議会	11
県立広島大学 ヘルス・ネット	12
弥生母親クラブ「ほっとまま」	13

事例集の発行にあたって

農林水産省は、平成28年4月に内閣府から食育推進事務の移管を受け、その一環として「食育推進ボランティア表彰」を行うこととなりました。

食育の推進においてボランティアの方々の役割は非常に重要であることから、農林水産省としてもボランティアの方々の表彰に取り組んでいきたいと考えております。

この食育推進ボランティア表彰は、若い世代を対象とした望ましい食習慣の普及啓発等の食育の推進に関するボランティア活動で、他の地域においても参考となり得るような先進的な取組をしている個人・団体を表彰するものです。

さて、このたびの表彰については、都道府県、政令指定都市、大学等から推薦のあった個人、団体等の計58件の事例の中から、特に優れた取組を行っている10件の個人・団体に対して、農林水産大臣賞が授与されます。

受賞者の取組をまとめた本事例集は、地域で様々な食育活動を行っている方々の参考としていただけるよう、作成いたしました。皆様の今後の食育活動をより一層充実したものにいただくために、ご活用いただければ幸いです。

平成28年6月

農林水産省消費・安全局消費者行政・食育課

平成28年度 食育推進ボランティア表彰選考委員会 委員

あ だち み ゆき
足 立 己 幸

〔女子栄養大学名誉教授、名古屋学芸大学名誉教授〕

なか むら てい じ
中 村 丁 次

〔神奈川県立保健福祉大学学長、公益社団法人日本栄養士会名誉会長〕

ふじ た く に こ
藤 田 公 仁 子

〔富山大学地域連携推進機構生涯学習部門教授〕

（敬称略、50音順）

食育推進ボランティア表彰講評



選考委員長

足立 己幸氏

女子栄養大学名誉教授
名古屋学芸大学名誉教授

今年3月に、「第3次食育推進基本計画」が公表され、日本の食育は大きなうねりの年を迎えています。こうした中、全国都道府県等から推薦された58件から、本日はすぐれた9団体と1個人の食育推進ボランティア活動が表彰されたことを、心から、お喜び申し上げます。

特に平成28年度の表彰は従来の目的に加え、次の2点が特記されました。

1点目は若い世代の食意識を高めること。食育は生涯を通じて、すべての人々に行き届く、さまざまな取り組みを推進する必要がありますが、今、日本の若い世代に食をめぐる問題点が多く、かつその後の人生や次世代への悪影響が心配されるからです。

2点目は貧困などにより“人間として十分な食事”へアクセスできない人びとへの食物の提供、共食の場や健全な食生活についての情報の提供等、身近な食環境づくりを含む食育をすすめること、です。

選考は主として①活動内容、②活動の波及及び評価、③活動の継続性及び安定性、の3側面から行いました。

いずれについても食育基本法で示す「食」、「食育ガイド」で示す「食育の環」の視野や視点、すなわち食物の生産から食べるまで、心身の健康・生きる力・仲間や地域づくり、そして次の生産や社会活動の形成という“地域における食の循環”全体をとらえているか、その中に自分たちの活動目的や目標を位置付けているか、それらを仲間や関係者で共有し、活動し、広げているかを重視しました。さらに、先にあげた2点のどちらかについて、自分たちの活動目的に具体的に位置づ

け、活動しているか、その結果やプロセスが日常活動の質を高めているかを重視しました。

また、活動の方法については、それぞれの課題の決定、団体や地域の特徴を活かした計画、実施、評価、そして次の行動へとラセン上昇する“着実な手順”を主体的にすすめていること、特にこうしたすすめ方を関係者で“共有”し、育てる”ことにつなげていること、さらに他へ“発信”し、仲間を“広げている”こと、を重視しました。

本日は表彰されたグループの一つ、「ヘルスチーム菜良協議会」の活動は奈良県内4つの大学サークルが協働・連合ですめる、高校生や同世代の栄養・食からの健康づくりへの支援活動です。出発は各大学の学生グループが、高校や大学の文化祭等で、自分たちの学習成果を活用した、食生活改善の説明やリーフレット配布の活動でした。その積み重ねの中、必要な専門分野の学習、大学の人材や社会資源の活用、地域の食育関係組織との関係・連携が生まれました。平成21年に、それぞれ個性的な活動をしてきた4大学が、複合的・統合的なパワーを発揮できる協議会にしたのです。県から「大学生が創るならの未来事業」として評価される等、若い世代が積極的に発信する「食育の環」づくりの活動事例です。

本日の受賞は、ゴールではなく、一步踏み込んだ、新しい食育のうねりへの出発です。自分たちの活動の特徴をより充実して、身近なところから一人でも多くの人々の“人間らしい食事・食生活”の実現へ、その地域の特徴を活かした持続可能な、新しい「食育の環」づくりの出発の日であると期待します。本日は、本当におめでとうございます。

平成28年度

食育推進ボランティア表彰

農林水産大臣表彰

受賞団体・個人の取組紹介

個人

受賞候補者名

す が ま ち よ
須釜 千代

■活動開始年月／平成9年4月（18年） ■福島県推薦

[活動概要]

食生活改善推進員の一人として、県民の健康水準の向上・食育の推進を継続し、人と人とのつながりを大切にしたい地域に根ざした活動で、料理教室や食育セミナーをはじめ行政等のイベント協力依頼等に対して、積極的に対応しています。

- 「私たちの健康は私達の手で」をスローガンに、減塩料理・野菜たっぷり料理・郷土料理などの紹介
- 栄養バランスのとれた食生活の大切さを伝える一斉活動
- 小・中学生を対象とした伝統料理教室
- 高校卒業生に対する食育活動
- 食育月間や食育の日の普及啓発活動

長年の活動は、子どもや若い世代の県民にも受け入れられ、食育の大切さや、食文化の継承にもつながり、ひいては県民の健康寿命の延伸と生活習慣病予防にもつながっています。



子どもたちに「食育授業」をする様子



料理教室の様子



災害支援活動／ヘルスメイトの活動の様子

一般分

受賞候補者名

あどぼけの会

■活動開始年月／平成19年4月（8年） ■群馬県推薦

[活動概要]

農地の管理団体の会が地元の保育園児を対象に、将来の後継者の育成を目的として、自分たちで植え付け収穫し、食べるという一連の作業を通じ、食べ物のありがたみを学ぶ食農教育活動を行っています。

- ジャガイモやさつまいもの植え付け・収穫
- 古代米の田植えや稲刈り、
- 餅つき等の指導及び体験活動の実施

「食べ物や食べ物に関わる自然や人たちへ感謝する心」を育み、好き嫌いをなく食べるといった食習慣の基礎を形成するとともに、体験活動を親子や地域コミュニティ（老人会、食生活改善推進員、地域住民）全体で実施して、あたたかい絆を育む取組となっています。



手作業で田植えや稲刈りを体験する園児の様子



餅つきを体験する園児の様子



園庭の隣りに畑を作り、植付けから収穫まで野菜づくりをする様子

越前市食生活改善推進員会

■活動開始年月／平成17年10月（10年） ■福井県推薦

[活動概要]

「越前市健康21計画」を柱に『-3gの減塩』『+100gの野菜摂取』について重点的に取り組み、公民館等での料理講習会開催や地区健康まつりでのPRなど継続的に活動しています。

- 自ら調理することで健康に気を配ることにつながる男性の料理教室の開催
- 市内全保育教育施設に呼びかけてお釜でご飯を炊く「ごはん塾」や親子の料理講習会の実施
- 薄味でもおいしい料理を掲載した「かんたん減塩レシピ集」を作成
- 中学3年生と保護者向けにレシピ集の配布
- 「次世代につなぐえちぜんの味 伝承料理レシピ集」を発刊

各世代、それぞれのライフステージを通じて健全な食生活への実践を促すとともに、地場産物を使った伝承料理のすばらしさを考える機会を作る取組となっています。



「-3g減塩／+100gの野菜摂取」の取組の様子



健康まつりでの成果発表とPR



公民館での料理講習会の開催風景

愛媛県立宇和島水産高等学校

■活動開始年月／平成17年4月（10年） ■愛媛県推薦

[活動概要]

水産高校生による保育園児、小学生、保護者を対象とした「魚食教育」の支援や魚加工品の研究・開発で地域経済の活性化に貢献しています。

- 魚の美味しさや栄養価値を伝える調理実習
- 地域の魚を使った「ご当地メニュー」を開発し、地元製造業者とコラボレーションした商品販売
- 国、県、市等が主催するイベントでのまぐろの解体ショーや加工品の販売、「鯛ピザ」等のブースの運営
- 地元魚「愛育フィッシュ」を使用した加工品（缶詰・瓶詰など）研究・開発

魚を使ったメニューや調理の支援により健全な食生活の支援を行うとともに、加工品の研究や商品開発で愛媛の水産物を全国にアピールする取組を行っています。



地元小学生とのじゃこ天づくり調理体験の様子



高校生によるマグロ解体ショー



子どもたちへの「魚食教育」風景



イベント会場での体験コーナー開催



商品開発およびご当地メニュー開発

那須塩原市食生活改善推進員協議会

■活動開始年月／平成10年8月（17年） ■栃木県推薦

〔活動概要〕

市の健康増進計画「健康いきいき21プラン」に基づいた健康づくりを推進し、食育推進活動を実施することにより子供から大人までの各ライフステージを通じ、生活習慣病予防に重点を置いた一貫性のある食育活動を行っています。

また、健康に関心の薄い層への働きかけの必要性から「来所型」から「人が多く集まる場所への訪問型」へとシフトし、様々な機関と横のつながりを持った活動を展開することで、より多くの市民に対する普及活動が可能になるとともに、地域の食生活改善に資する取組となっています。

- 子育て中のパパママを対象とした食事バランス教室の開催
- 公民館と連携したおやこの「食育教室」の開催
- 中学校の総合的な学習の時間における食育「お弁当づくり」への協力
- 自治会主催「子育てサロン」における減塩推進活動
- 30歳、35歳節目健診およびがん検診の受診者に対する減塩推進活動



乳幼児を持つ親を対象とした食育教室



小学生・親子食育教室



ヨガ教室での野菜摂取の重要性教室



中学生対象の地産地消弁当づくり教室



節目健診時での減塩活動

新居を花いっぱいにする会

■活動開始年月／平成8年3月（19年） ■高知県推薦

〔活動概要〕

新居小学校5年生を対象に地域住民と一緒に、自然環境や自身の食生活、食の重要性に関心を持ってもらうことを目的に、農作業で収穫したもち米から赤飯を作る食体験を通じて地域住民と児童のつながりを深める活動をしています。

- 米作り(5月上旬田植え、9月上旬稲刈り)
- 赤飯づくり(独居老人に赤飯を届けることで喜んでもらい、感謝される喜びを知る)
- 経験で感じたことを発表し、交流

日々の生育観察で自然環境や自身の食生活、食の重要性に関心を持つきっかけとなる取組であり、また独居老人に赤飯を届けることで感謝される喜びを実感し、食を通じたコミュニケーションの大切さを知る機会ともなっています。



新居小学生と地域住民と一緒に収穫体験



赤飯を作る様子



独居老人に赤飯を届ける子どもたち

大学等 受賞候補者名

ファス
FAS

■活動開始年月／平成 25 年 9 月（2 年） ■宮城学院女子大学推薦

〔活動概要〕

栄養学と教育学を学ぶ学生が自身の実践力を養うとともに、食を通じた地域の活性化に貢献するため、児童館にいる子どもたちを対象に食事バランスについての栄養教育を実施しています。

- 地元企業や地元住民の方々と連携し、地場産品を使った子どもにも親しまれる衛生面、および栄養面にも配慮した災害食レシピを開発
- 若い世代への地産地消の定着と地域の活性化のための活動
- 地域の食産業と連携したレシピ「アカモクプロジェクト」(海藻の一種である「アカモク」をPRするための活動)の実施

活動は全て地域と連携しており、災害時の食の問題を考え、子供たちや地域住民への食の備えの大切さを伝えるとともに、地産地消の食材を使用して地域の農林水産業にも貢献する取組となっています。



災害食プロジェクトでの「食育クイズ」や「調理実習」の様子



アカモクプロジェクトによるレシピ開発の様子



大阪府茨木市での災害食プロジェクトの報告会の様子

大学等 受賞候補者名

ヘルスチーム菜良協議会

■活動開始年月／平成 21 年 4 月（10 年） ■帝塚山大学推薦

〔活動概要〕

各大学ごとあるいは4大学連携で若い世代を中心とした栄養・食生活に関する啓発活動や自治体や他団体、企業等と協働で啓発媒体の作成やイベントや講座の実施協力を行っています。

- 文化祭での食事診断、食育ゲーム、パネル展示で高校生・大学生への食生活改善・健康づくりの普及啓発
- 新入下宿生への食事バランス講習・クッキング講習
- 奈良県「おでかけ健康フェスタ」でのヘルシーランチの提供や子ども向け食育
- 学食との協働によるヘルシーランチ開発、販売
- 高校生向けの健康ガイドブック、簡単料理レシピ、かんたん調理DVD等の作成

栄養・食生活に関する啓発活動は企業等と連携した活動へと広がっており、またメンバー自身が活動を通して得た知識や情報を友人等身近な人に伝えるなど自分自身や周囲の行動変容につながる取組となっています。



スイーツコンテストで奈良の特産品PR



おでかけ健康フェスタでの活動



高校生への出張課外授業



4大学連合コラボ弁当企画



中学生とのコラボ企画

県立広島大学 ヘルス・ネット

■活動開始年月／平成 24 年 4 月（3 年） ■県立広島大学推薦

[活動概要]

地域とともに地元食材のレシピ開発や健康的で栄養バランスに配慮した食生活普及のための食育活動を通じて、地産地消の普及や健康の維持増進に寄与しています。

- 乳幼児の親子、小学生を対象とした食育講座の実施
- 学内・外で実施する小学生を対象とした料理・おやつづくり教室等、公開講座の企画・運営
- オープンキャンパス時に食堂受託業者と連携し高校生を対象に食事の提供などで普及活動
- 大学生を対象としたバランスのとれた食事の提供と自作DVD等の放映、講話で栄養教育を実施
- 広島県産食材を使用したスイーツの開発・販売とレシピ開発・普及
- テレビ局と連携し、ホームページに食育情報とオリジナルレシピの掲載
- 地域住民に対し、減塩の取組実施

乳幼児から小学校、高校～大学生、地域住民への食育講座やマスメディアを利用した積極的な情報発信を実施するとともに、活動記録による振り返りや課題解決で、常に活動の改善を行い、成果を上げています。



小学生対象の食育講座風景



乳幼児対象の食育講座



若年層向けのレシピ開発
トマト鍋の試食の様子



デザートコラボ開発会の様子

弥生母親クラブ「ほっとまま」

■活動開始年月／平成 21 年 4 月（6 年） ■大分県推薦

[活動概要]

母親クラブと児童館が協力して、地区内の小学生の希望者に対し、年間テーマに沿って、調理、作物の栽培、食に関する現地見学、手作り食品の販売等を行い、食への関心を高め、考え選択できる力をつけています。

- 作物の栽培、乳搾り体験
- 地域の生産現場で食に関する現地見学
- 保存食作り、手作り食品の販売、
- オリジナルレシピによる料理コンテストへの参加
- 講師学習による学習会の実施
- 体験内容のパネル展示で発表

地域食材や料理を学ぶことで、世代間交流や地域の活性化にも繋がっています。また、ボランティアメンバーの母親たちは子供を指導するのではなく、ともに体験を共有することで、押し付ける食育ではなく、子供自らの考えでより深く食育を理解していく取組みとなっています。



あずきの収穫をする小学生の様子



梅のどう干しの様子



収穫したあずきでのあんこ餅を作る



料理コンテストに参加する子どもたちの様子